

家の近くの植物を楽しむ

いしだ ゆうこ
石田 祐子(学芸員)

植物は動物と違って逃げないのでじっくり観察しやすく、大きな自然公園や森、山などに行かなくても、小さな公園や植え込み、自宅の庭など、自宅の周辺でも観察ができるという利点があります。このため、散歩のついで、買い物のついでに観察が可能です。出会った植物の名前が分からなくても全く問題ありません。“ニックネーム”をつけておいて観察を続けていると名前は分からなくてもその植物のことをよく知ることができます。もちろん、写真を撮っておいてあとから調べてもいいでしょう。植物の名前を知ること大事ですが、まずは、その植物の特徴をしつかり観察することが大切です。

博物館では、昨年の初夏から「生きものDEビンゴ」を当館ウェブサイト「ウェブで楽しむ地球博」に公開しています。「生きものDEビンゴ」の植物シリーズは、遊びを通して楽しみながら身近な植物を観察できるようにとの思いをこめて作成しています。この植物シリーズでは、「いろいろな葉っぱと花 編」・「いろいろなおちば 編」に続き、この冬「冬のしよくぶつ 編」を公開しました。いろいろな特徴をキー

ワードに植物を探してみる、そんな植物観察を楽しんでみてはいかがでしょう。

ここでは「生きものDEビンゴ」の「冬のしよくぶつ 編」で取り上げた冬芽や樹皮、ロゼット(放射状に重なり合うように広がった地表に密着した葉の集まり)等、冬の植物の観察ポイントを紹介します。

冬の樹木

冬の樹木と言うとどんな姿が思い浮かびますか？クスノキなどのように冬の間も葉を付けたままの常緑樹、ケヤキやイチョウのように葉を落とす落葉樹が思い浮かぶでしょうか。落葉樹は1年のうちある時期に葉を全て落として休眠状態になる樹木のことを言い、日本では冬に葉を落とす樹木が多いですが、中にはオニシバリのように冬に葉を出し夏に葉を落とす樹木もあります。

多くの落葉樹の葉が落ちる冬は、冬芽や枝の^{とげ}刺が観察しやすい季節です。また、葉が落ちて樹皮も目に留まりやすくなります。

樹皮と刺

樹皮(図1A～D)を見てみると、シラカシのようにザラザラしたもの、クスノキのように縦に筋の入ったもの、ナツツバキのようにまだら模様に見えるもの、サクラの仲間のように皮目とよばれる細長い目のような模様があるものもあります。また、サンショウやユズのように枝や幹に刺のある樹木もあります(図1E, F)。

冬芽

冬芽は春になれば伸びだす花や葉、枝が冬越ししている姿です。常緑樹の場合、葉が付いているので落葉樹より冬芽を探すのが大変かもしれませんが、枝先に注目してみると見つかりやすくなります。冬芽(図2)を見てみると、カワヅザクラやアラカシのようにうろこ状のもの(芽鱗と呼ばれる)に嚴重に覆われたもの、カキノキやイロハモミジ、アラゲアオダモのように覆いが少ないもの、コブシやビワのように芽鱗がふわふわの毛で覆われたもの、アジサイのように覆いがいないものなど様々です。形もアラゲアオダモのように先の丸いものやアラカシなどのように

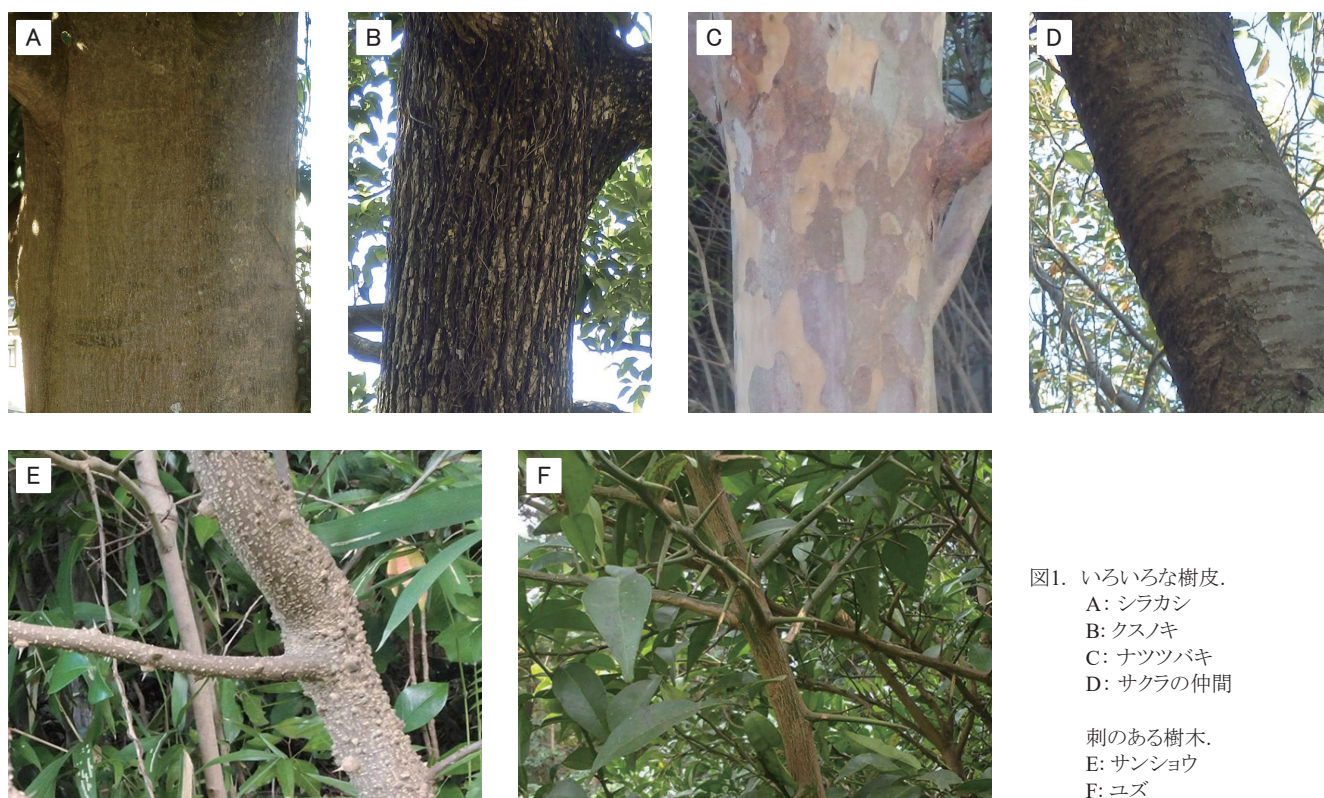


図1. いろいろな樹皮。
A: シラカシ
B: クスノキ
C: ナツツバキ
D: サクラの仲間

刺のある樹木。
E: サンショウ
F: ユズ

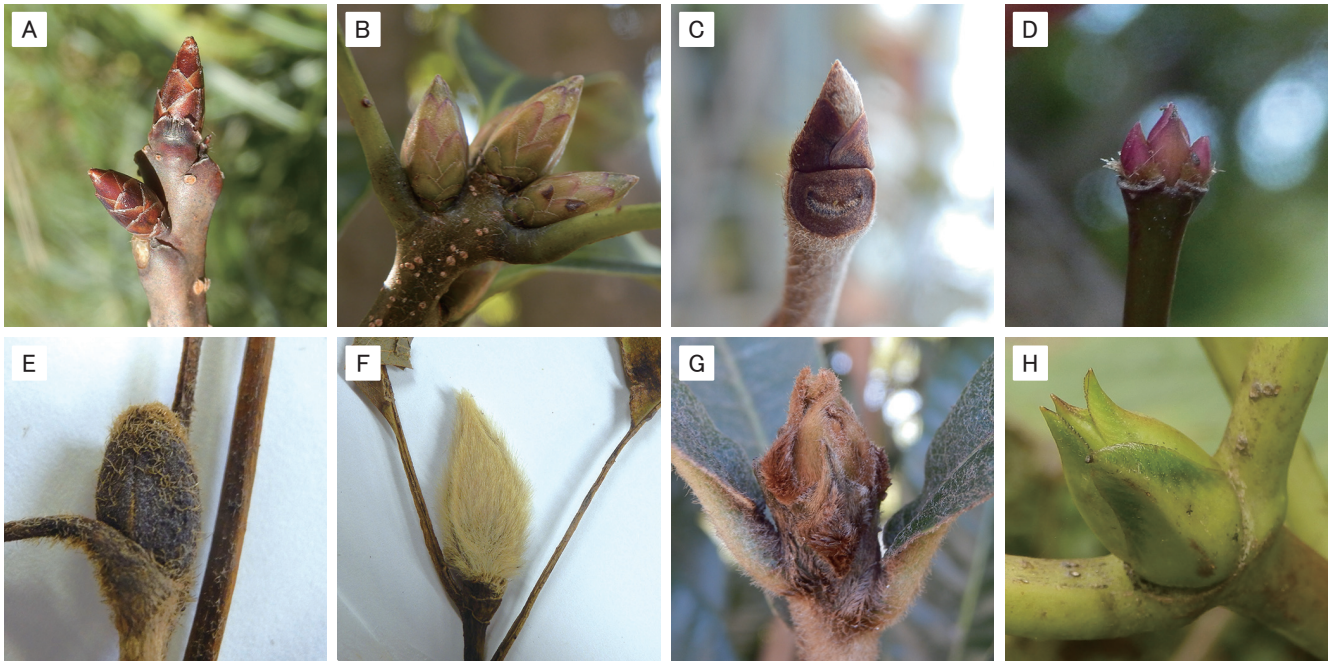


図2. いろいろな冬芽. A: カワヅザクラ, B: アラカシ, C: カキノキ, D: イロハモミジ, E: アラゲアオダモ, F: コブシ, G: ビワ, H: アジサイ.

尖ったものがあります。

冬芽の近くには、葉痕^{ようこん}という葉が落ちた跡が見られることがあります。葉痕については、自然科学のとびら Vol.25, No.4 (大西, 2019) で詳しく紹介されていますので、そちらをご覧ください。

冬の草花

草本植物は冬をどのように過ごしているのでしょうか。ジャノヒゲやツワブキのように、夏も冬も姿を変えずそのまま冬を越す植物、タンポポなどロゼットで冬を越す植物、ススキやサツマイモ、ヒヤシンスなど地下の茎や球根などで冬を越す植物、アサガオやヒマワリなど種で過ごす植物があるほか、ヒガンバナのように冬に葉を出し夏には葉が枯れてしまう冬緑性の植物もあります。

タンポポやチチコグサは、夏には花や立ち上がった茎や葉などが目立ちますが、冬にはそれらがなくなり、ロゼット葉だけになるため夏とは少し違う姿になります。周囲の植物が枯れた冬はロゼット

が観察しやすい季節です。

ロゼット

ロゼットとは、もともとはバラの花の形を意味する言葉ですが、冒頭でも説明したように葉っぱのロゼットは地面に張り付いたような放射状に広がった葉の集まりのことを言います。

ロゼットを見てみると、セイヨウタンポポやタネツケバナの仲間のように切れ込みのある葉、オオバコやウラボシチチコグサのように切れ込みのない葉、アカオニタビラコやチチコグサのように葉の表面に毛が生えているものなど、様々な形をした葉がロゼットを形成していることが分かります(図3)。

おわりに

葉や花がない状態で植物の名前を調べるのは難易度が高く、図鑑で調べてみてもなかなか名前が分からないかもしれません。ニックネームをつけて定期的に観察してみたり、「○○かな」と考えておい

たりして、春になったら答え合わせをしてみるとよいでしょう。

引用・参考文献

- 生きもの DE ビンゴ
(神奈川県立生命の星・地球博物館)
<https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1598977337365/index.html>
大西 亘, 2019. スマートフォン用マクロレンズで冬芽観察をしよう!. 自然科学のとびら, 25(4): 30-31.
広沢 毅 (解説), 林 将之 (写真), 2010. 冬芽ハンドブック. 88pp. 文一総合出版, 東京.
林 将之, 2006. 樹皮ハンドブック. 80pp. 文一総合出版, 東京.
鈴木 庸夫・高橋 冬・安延 尚文, 2014. 樹皮と冬芽: 四季を通じて樹木を観察する 431種 (ネイチャーウォッチングガイドブック). 271pp. 誠文堂新光社, 東京
亀田龍吉, 2012. 野草のロゼットハンドブック. 88pp. 文一総合出版, 東京.

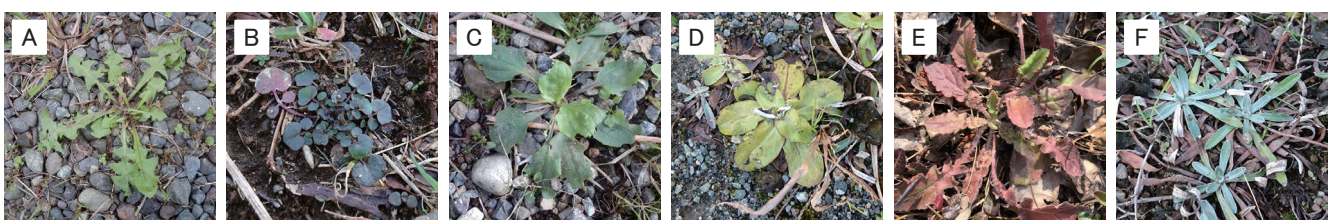


図3. いろいろなロゼット. A: セイヨウタンポポ, B: タネツケバナ, C: オオバコ, D: ウラボシチチコグサ, E: アカオニタビラコ, F: チチコグサ.